

●富士連区の情報●

⑥連区の人口構成 R5.4.1

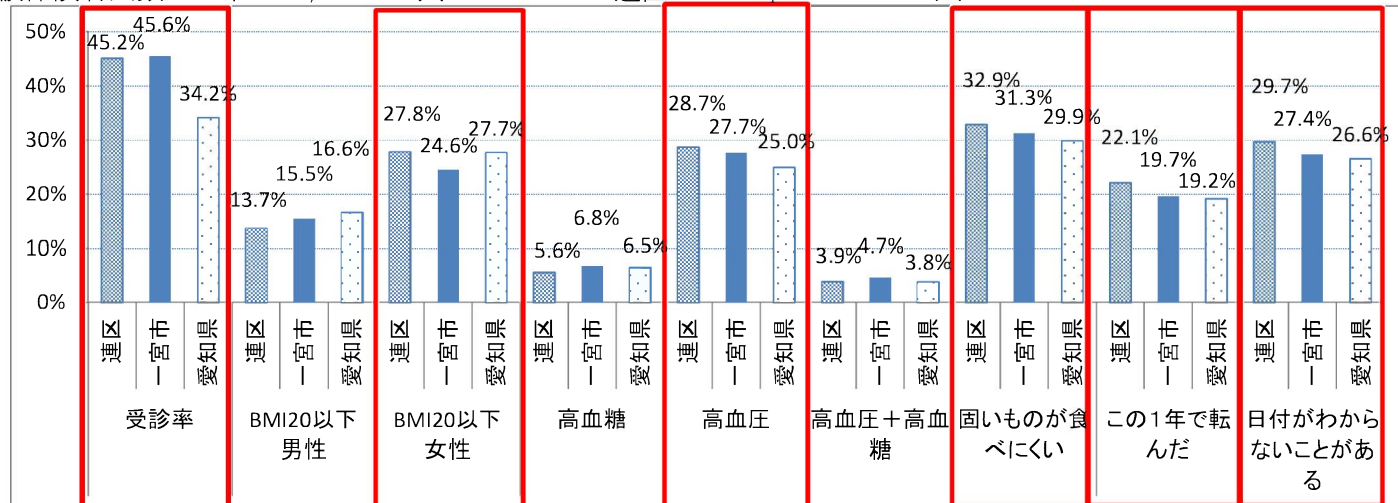
総人口： 9,386 人（男性 4,510人、女性 4,876人）

世帯数： 4,327

高齢化率： 25.9 %（市内高齢化率が高い順で23連区中13番目）

⑦一宮市後期高齢者医療制度 健康診査（令和4年度）

被保険者人数 市 59,387 人 連区 1,310 人



「BMI20以下」、「固いものが食べにくい」、「この1年で転んだ」、「日にちがわからないことがある」の4点はフレイル（虚弱）に関する質問項目になります。

資料：KDBシステム

⑧地域活動（地域包括支援センター「ちあき」や社会福祉協議会の活動より）

・富士連区ふれあいカフェサロン

場所：富士公民館

日時：奇数月第3水曜日午前9時30分～11時30分

内容：手芸等創作活動やコミュニケーションが中心

高齢者の集う場があると良いという思いからサロンが開設されました。

支援者の方が淹れてくださるこだわりの珈琲が自慢です。

多くの方が参加されていていつも楽しくお話しされています。手芸を目的に来ている方もみえます。



・花岡町カフェサロン

場所：花岡町民会館

日時：毎週水曜日13時30分～15時

内容：茶話会・脳トレ・ビンゴ・カラオケ等。

地元の支援者が企画運営されているアットホームなサロンです。

参加されている皆さん毎週水曜日を楽しみにされている様子でした。

認知症予防・認知症の方への支援にも取り組まれている素敵なサロンです。



⑨データから見る地域の特徴と健康の課題

《市全体のこと》

- 平均的に要介護2以上の期間は、男性で1.6年、女性で3.1年。この期間を短くすると、自分のことが自分でできる期間が長くなる。今後の、健康増進、介護予防の取り組みでこの年数を減らすことが望まれる。

《連区のこと》

- 健診受診率は市と比べると低い。後期高齢者の健診は、フレイル健診とも言われ、知らない間に進むカラダの変化のチェックができる。生活の中の工夫で、病気や介護を遠ざけることもできるから、1年に1回利用しよう。



かかりつけ医を作り、病気だけではなく、カラダの変化も相談しよう。
今後の人生に楽しい時間が増えるかもしれません♪



- 健診結果から、「高血圧」が市よりも多い。自覚症状はないから、病院で診てもらうことが必要。
BMI20以下の「低栄養」の割合は、女性が市よりも多い。知らない間に痩せていることもあるので、要注意。
- 質問票の結果から、「固いものが食べにくい」、「この1年で転んだ」、「日付がわからないことがある」人の割合は、市よりも多い。フレイル予防の知識の普及と予防の取り組みを進める必要がある。
- 地域活動について
低栄養の人や転んだことがある人等が多く、フレイルに注意したい人が多そうだが、市民の方が楽しみながら交流できる場があるようです。そういったことが、フレイル予防にはよい活動になっている。



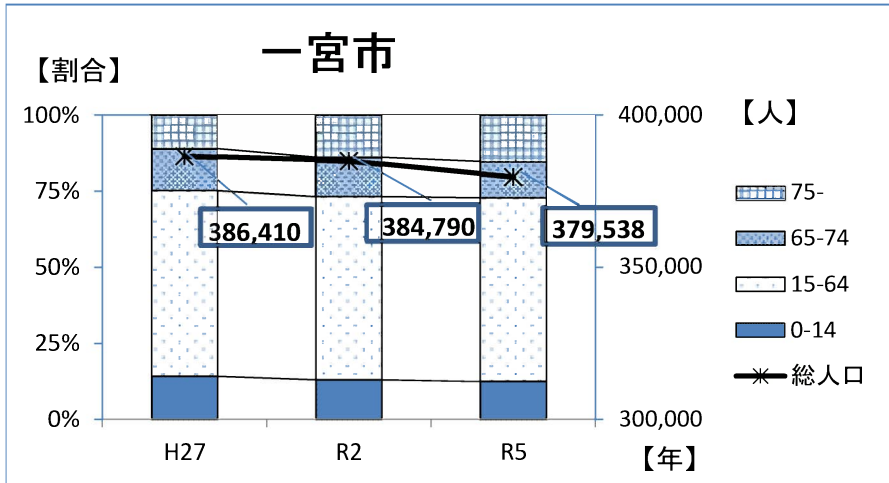
フレイル予防は、運動、食事、人との交流がキーポイント。
富士連区の活動は、フレイル予防につながっているね！

一宮市の情報

一宮市の情報

①人口推移(各年4月1日)

②男女別年齢階級別人口(令和5年4月1日)



資料:住民基本台帳

③人口構成(令和5年4月1日 住民基本台帳)

総人口: 379,538 人(男性 185,327人、女性 194,211人)

世帯数: 166,564

高齢化率: 27.2% (参考: R4国29.1%、R4愛知県25.6%)

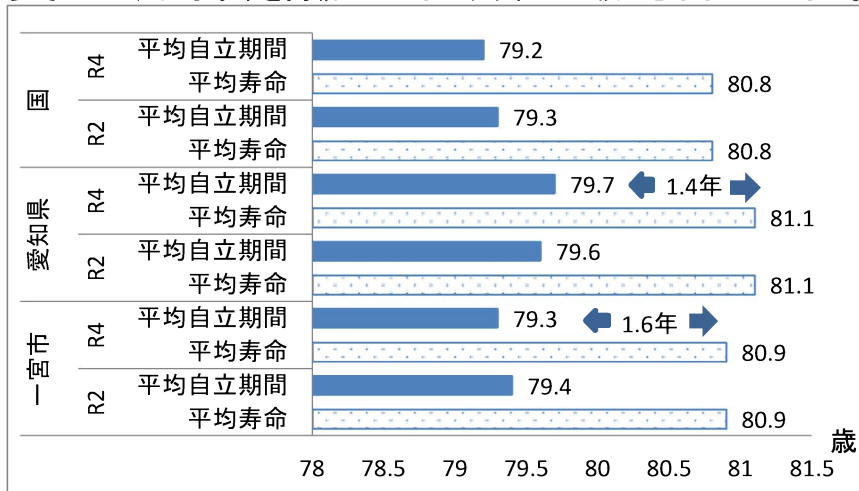
要介護認定率: 17.5% (令和5年9月末 第9期高齢者福祉計画)

③平均自立期間(市町村レベルの健康寿命の指標)

平均自立期間とは、日常生活動作が自立している期間の平均年数を示す。

要介護2以上を不健康状態と定義して、平均余命から不健康期間を除いたもので算出します。

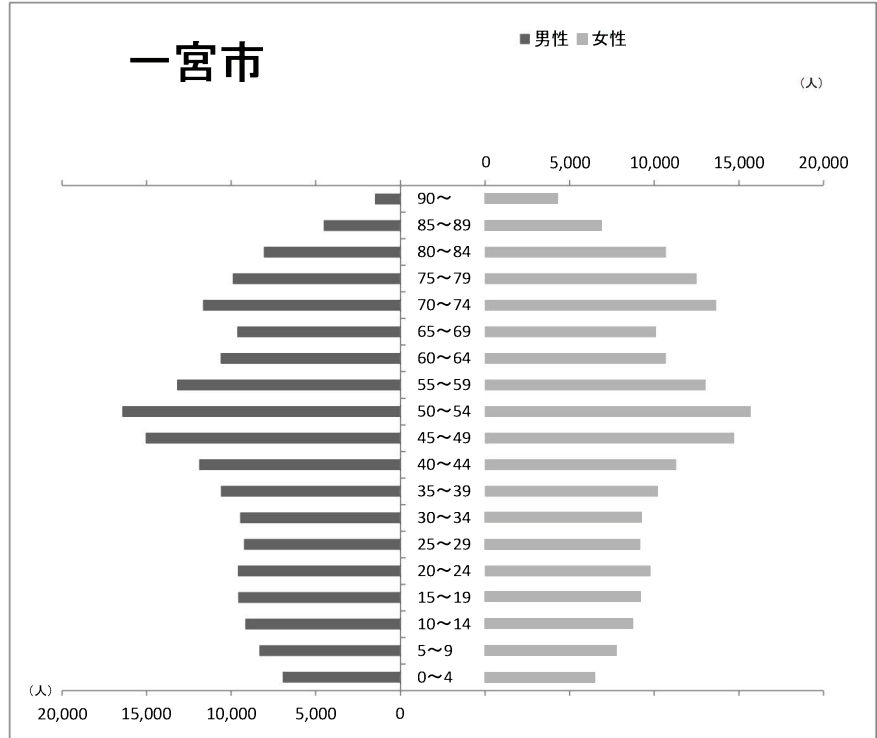
参考として、平均寿命を掲載しているが、単純に比較できるものではない。



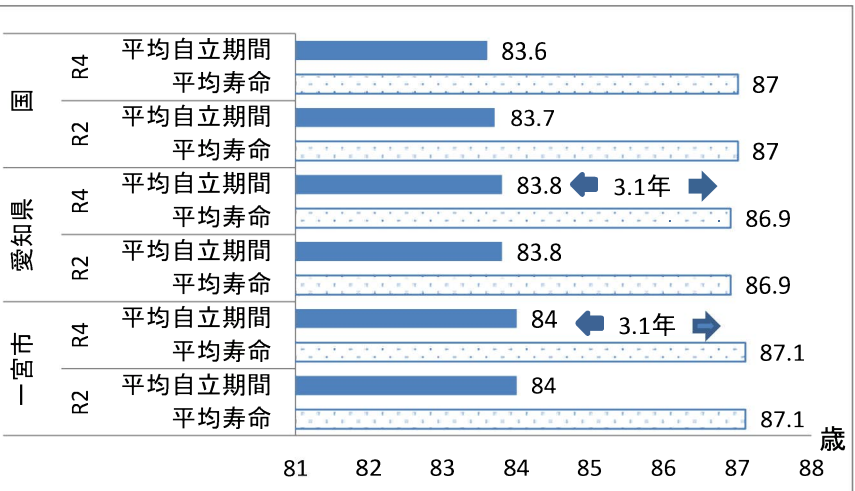
平均寿命は、男女とも、令和2、4年は同じ。愛知県よりも男性は0.2年短く、女性は、0.2年長い。

平均自立期間と平均寿命の差が、平均的な不健康期間となります。

一宮市の不健康期間が男性は約1.6年、女性は3.1年で、愛知県より不健康期間が男性は0.2年長く、女性は同等でした。

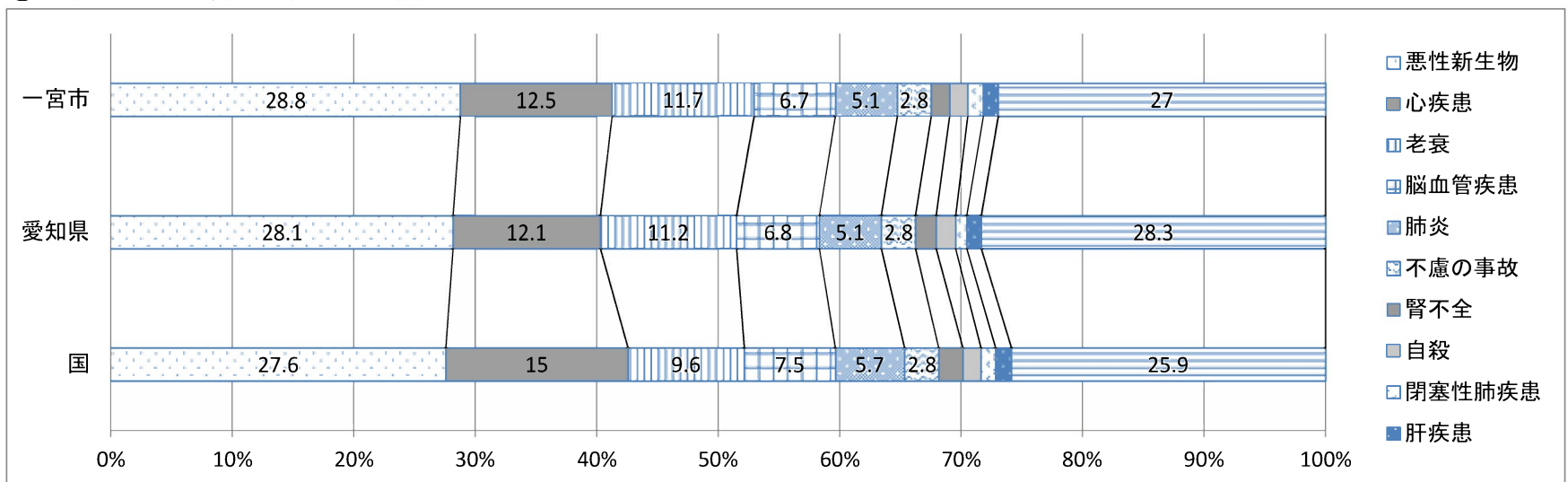


資料:住民基本台帳



資料:KDBシステム

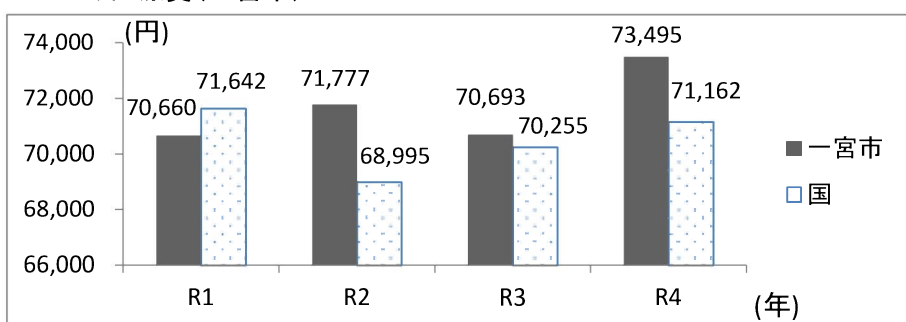
④主要死因別順位(令和2年度)



資料:健康日本21いちのみや計画

⑤後期高齢者医療保険制度 医療費データ

一人当たり医療費(一宮市)



死因の上位を悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病が占めているよ。
生活習慣病は、予防対策があるから、かかりつけ医や保健師に相談し、自分にあった対策を考えよう。
早めに対策することで医療費も安くなることもあるよ。



資料:KDBシステム